

技術開発進行中！

◎クエ放流保護育成礁の開発

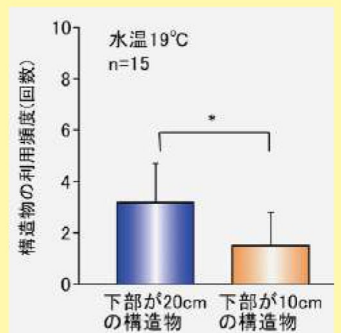
クエの種苗放流が増加している一方、放流した種苗が大型魚に食べられてしまい、放流直後の食害が懸念される。

⇒餌場と隠れ場を強化したクエ種苗放流保護育成礁の研究が必要！



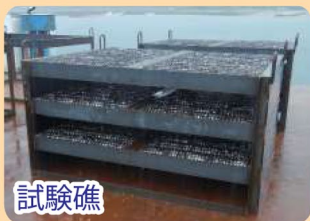
① 種苗の隠れ場として適した構造を検証

内部空間が暗く、20cm 程の間隔の柵を持つ構造物が最適であることがわかった。



※2019年度倉敷市がんばる中小企業応援事業により実施（共同研究先：水産大学校）

② ①の結果をもとに試験礁を製作し、実海域に設置（長崎県対馬市）200個体の種苗を放流、効果を検証。1日後、1週間後、1カ月後も種苗を確認。



調査委託：(一社)水産土木建設技術センター長崎支所

③ 貝殻基質の隠れ場機能を検証

全長4～5cm程度のクエの隠れ場として、カキ殻基質が最も効果が高かった。

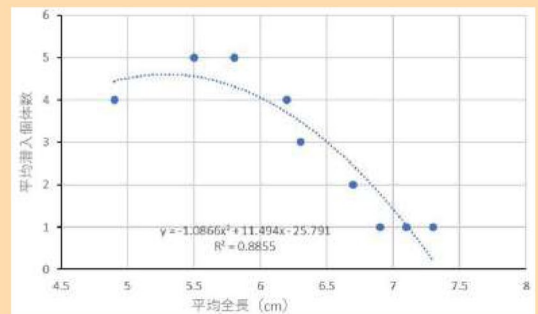


図 クエの全長とカキ殻基質に潜入りする個体数の関係



※令和2年度きらめき岡山創成ファンド支援事業により実施（共同研究先：岡山理科大学専門学校）

今後、クエ種苗放流保護育成礁の製品化を目指します！

